

穂学



令和3年度
広州日本人学校 学校便り
[No.4]
令和3年7月16日(金)
発行責任者 校長 加藤康德

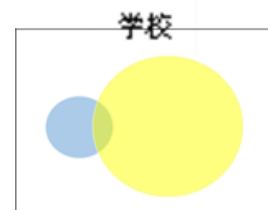
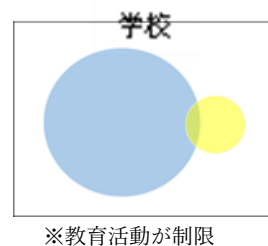
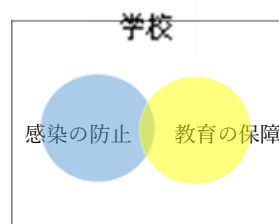
「学校における危機とは」

本校が設定した「新型コロナウイルス感染拡大防止特別週間」を解除して約3週間が過ぎました。各種メディアの報道では、中国国内においては本土感染者が発生していたようですが、幸いにも広州日本人学校がある広東省では、今日まで(7/16日現在)本土感染者は「0」の日が続いています。

今回の新型コロナウイルス感染拡大防止特別週間においては保護者の皆様を含め各方面の方々にご心配をおかけしました。この間、休校をすることなく子どもへの適切な教育が継続できたのは一重に保護者の皆様をはじめ関係者の方々のおかげだと思っております。感謝を申し上げます。現在本校では新型コロナウイルス感染収束の報道を受け、「校内におけるマスクの着用」などの制約はありますが、他校との交流や集会活動を除きほぼ当初の計画に基づく教育活動を展開しております。

さて、今回の広州市における新型コロナウイルス感染拡大の中、私達が第一に心がけたのは「適切な教育活動を如何に子ども達に保障するか」ということでした。既にご存じのことと思いますが、昨年度より学校には右図で示すように「新型コロナウイルス感染拡大の危機」と「子どもの教育活動が保障されない危機」の2つが存在しています。感染拡大の防止を優先すれば、子どもへの適切な教育活動の制限が増し、その最大の対策は「休校」という形になります。また、子どもの適切な教育活動を優先すれば学校における感染の拡大を招いてしまうことになります。本校ではこの「感染の危機」と「子どもへの適切な教育が保障されない危機」という2つの危機にジレンマを感じながらも子どもの教育を保障するために知恵と工夫で乗り越えようとしてきました。

そこで今回の新型コロナウイルス感染拡大防止特別週間では、本校は感染の危機回避を3つのセクション(学校、保護者、市行政府)に分け、それぞれの役割を決め、学校以外での危機管理の徹底をお願いをして、この相反する2つの危機に対応してきました。その役割とは以下の通りです。



○学校「情報の収集と分析に基づく計画的な教育活動の制限」「クラスター発生の防止」

※ウイルスの感染は人を介して広がります。外部からウイルスを持ち込まなければ感染は発生しません。そこで、学校ではクラスターを発生させないことに重点を置きました。

全ての教職員には家での生活について制限をかけ、発熱などの不安材料がある場合は出勤させませんでした。

○保護者「不要不急の外出を控える」「発熱がある場合は登校を控える、或いは早退をさせる」

※新型コロナウイルス感染拡大防止特別週間では、保護者の皆様にも家庭生活における制限をお願いしました。また、事前に「登校の可否」などの連絡を頂いた場合は、こちらからお願いをして制限をかけさせて頂きました。

※PTAのバス会においてもバス会社への感染防止の対応をして頂きました。

○市行政府「感染情報の連絡」「感染発生場所のロックダウンやPCR検査などの実施」

※市や区の教育局の幹部の方と直接お会いして情報の交換と感染拡大防止についての方針を伺いました。その中では「現在、学校がある黄浦区の学校に制限をかけることは考えていない」「日本人学校については他の学校と同じように大切に考えているので、PCR検査など感染拡大防止に向けた要望があればすぐに対応する」「感染の疑いがある場所は直ぐにロックダウンを行うから安心してほしい」などの対応を確認し、今後の対応への共通理解を図ることができました。

今回は休校という学校のロックダウンをせずに子どもの適切な教育を受ける権利を守ることができました。これは一重に学校、保護者、市行政府のお互いの信頼関係の成果だと考えております。関係者の皆様に改めて感謝を申し上げます。現在、子どもたちは元気に教育活動に取り組んでいます。未だマスクは外せませんが、それでも静寂の中で学習を行っていた先月よりも笑顔が溢れるようになってきました。これからもこの笑顔を絶やさないようにするために知恵と工夫でこのコロナ禍という難局に立ち向かい、子どもの適切な教育を受ける権利を保障していこうと考えています。

これからも保護者、及び関係者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

